

研究の概要

1. 研究主題 変化が激しい時代の中で、自ら社会を創造する子どもの育成
～社会的事象への関心を高め、見方・考え方を働かせ、自ら思考・判断・表現する授業を通して～

2. 主題・副主題設定の理由

石中社では、令和2年度から研究主題を「変化が激しい時代を乗り越え、自ら社会を創造する子どもの育成」と設定し研究に取り組んできた。令和5年度からは主題をそのままに、副主題を「対話を用いた主体的な学びと学習者が自ら課題を創り出す授業を通して」と定め、2年計画で自ら課題を見つけ出す力を身に付けたり、解決するために仲間と協働しながら考え創り上げたりする力を高め、「自ら社会を創造する子どもの育成」を目指す研究を進めてきた。

昨年度からは研究主題を「変化が激しい時代の中で、自ら社会を創造する子どもの育成」、副主題を「社会的事象への関心を高め、見方・考え方を働かせ自ら思考・判断・表現する授業を通して」と変更し研究を進めてきた。ここ数年で社会は急激に変化し、今後とも不確実で予測不可能な時代が続くと言われている。また、我が国の学校教育には多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の造り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。よって、「自ら社会を創造する子どもの育成」を目指す方向性は前研究と同様である。

石中社では、「自ら社会を創造する」ことを、上記のような予測不可能な時代を乗り越えるために、「子どもたちが自信をもって自分の人生を主体的に切り拓き、よりよい社会を創り出していくこと」と定義している。子どもたちが自信をもって自分の人生を主体的に切り拓いていくために、社会的事象への関心を高めることを通して、「変化が激しい時代」を生きているということを生徒に実感させる必要があると考える。また、その上で、社会的な見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現する経験を通して生徒が「自ら社会を創造する子どもの育成」を目指す。この「社会的な見方・考え方」については、平成30年度から平成31年度（令和元年度）に石中社として研究を進めた経緯がある。引き続き、過去を振り返ったり、現代・未来を創造したりすることを見据えた「見方・考え方」を働かせた授業を部会全体で創り上げていきたい。

以上のことを研究主題・副主題の趣旨として、昨年度からの研究を継続させていく。

3. 研究仮説

社会的事象への関心を高め、見方・考え方を働かせ自ら思考・判断・表現しようとすることができる授業を展開することで、「変化が激しい時代」を実感し「自ら社会を創造する子ども」を育成することができる。

4. 研究の年次計画

- 1年次…社会的事象への関心を高められる授業の展開
2年次…見方・考え方を働かせ、自ら思考・判断・表現する授業の展開

5. 研究方法

- (1) 市町村研究部会と連携を図り、推進委員を通して部会員に研究内容を周知して、個人単位または学校単位で課題に取り組む。そして、その成果を専門部会第二次研究協議会で交流する。
- (2) 研究内容を踏まえた授業について、公開授業担当市町村から出された授業者と共同研究者、本部会役員等で検討を重ね、専門部会第二次研究協議会で公開する。また、北・中・南の各ブロックで研究授業を公開し、研究協議を行う。
- (3) 研究員及びプロジェクト研究員（小委員会）が中心となって研究試案を作成することを通して、部会員に研究の方向性を周知する。

【石中社として育てたい生徒像】

- ①「変化が激しい時代」を**実感できる**生徒
- ②自ら社会を**創造することができる**生徒

【石中社として目指す授業像】

- ①社会的事象への**関心を高められる**授業
- ②社会的な見方・考え方を働かせ、自ら**思考・判断・表現する**授業

【目指す授業像の実現のために、今年度も実践を積み重ねていきたいこと】

- ICTの活用 ○単元デザイン ○学習課題の設定 ○題材の設定 ○教材・教具の工夫
- 導入の工夫** ○発問の工夫 ○指導内容の精選 ○学習活動・形態の工夫（個別最適な学び・協働的な学び等） ○思考ツールの活用 ○板書の工夫 ○ワークシート・ノートの活用
- 資料提示・活用の工夫** ○学習のまとめ・振り返りの工夫 等

【実践を積み重ねていくことを通して、今年度、特に研究の成果と課題の共有を図っていきたいこと】

1年次 「導入の工夫」 ※「導入の工夫」 > 「資料提示・活用の工夫」

2年次 「資料提示・活用の工夫」 ※「導入の工夫」 < 「資料提示・活用の工夫」

⇒生徒が切実性・必要性を感じ、学びに向かう気持ちを高めることができたか（1年次・2年次）

⇒生徒の学びに向かう気持ちを、「知識・技能の習得」「社会的な見方・考え方を働かせた

思考・判断・表現」につなげることができたか（1年次・2年次）

⇒「**資料提示・活用の工夫**」が単元や本時の学習（展開・まとめや振り返りといった終結）に効果的に生かされていたか（2年次）

【部会員の先生方と共有したい事項】

①研究の方向性

- ・ゴールは研究主題に示す子どもを育成することである⇒【石中社として育てたい生徒像】
- ・ゴールに到達するための授業像がある⇒【石中社として目指す授業像】
- ・【生徒像】【授業像】を意識された部会員の先生方の実践があるが、石中社として今年度は「**資料提示・活用の工夫**」に重点をおきたい
- ・石教研二次研究協議会の中では、特に**重点においたことについて特に成果と課題を共有したい**
- ・ただし、協議会の中では重点に置いたことの他、【生徒像】【授業像】を意識された部会員の先生方の実践についても交流を図りたい

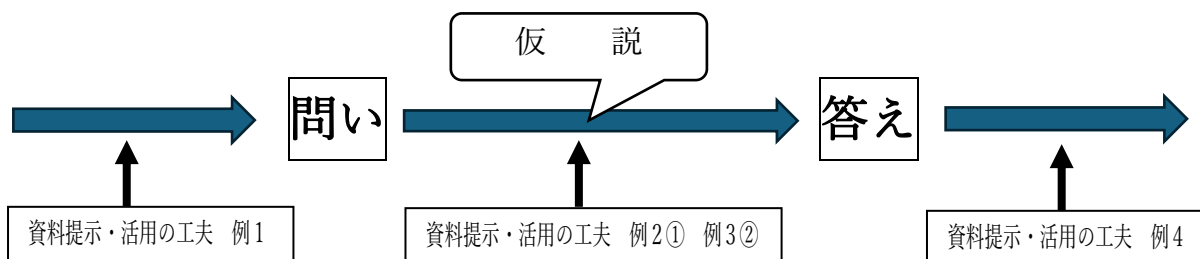
今年度も、レポート形式は問いません。

②「資料提示・活用の工夫」について

社会科の授業は「問い」と「資料」によってつくられます。「資料提示・活用の工夫」とは、例えばその「問い」を見つけるための「資料提示・活用の工夫」となります。以下、「資料提示・活用の工夫」の具体例です。

- 例 1 学習者に単元や授業の導入時に問いを発見させるための「資料提示・活用の工夫」
⇒問いを作る役割
- 例 2 - ① 単元や授業で設定した課題の解決に向けて、学習者に仮説を立てさせるためのヒントとなる
「資料提示・活用の工夫」
- 例 3 - ② 単元や授業で設定した課題の解決に向けて、学習者が仮説を検証するための
「資料提示・活用の工夫」
⇒発見した問いに対して仮説や予想を立てさせる役割
⇒立てた仮説や予想を確かめる役割
- 例 4 学習者の学びを深めるための「資料提示・活用の工夫」
⇒学習者の学びの質を高める役割

上記の具体例を、単元や授業の流れの中で設定したとすると、以下の図のようになると考えます。



上記はあくまでも一例です。実践される部会員の先生方をお願いしたいことは、

- ①「生徒が切実性・必要性を感じ、学びに向かう気持ちを高めること」ができ、また、「学びに向かう気持ちを知識・技能の習得、社会的な見方・考え方を働かせた思考・判断・表現につなげること」ができるように、単元や授業の流れの中に「資料提示・活用」の場面を適切に設定すること
- ②設定した「資料提示・活用」について、なぜその場面（導入、展開、まとめ）だったか、どのような効果を期待していたか等、授業者の意図を明確にもつこと

です。

今年度の研究のことについて不明な点等ありましたら、野幌中学校 大塚 までお問合せください。

今年度もよろしくお願いいたします。